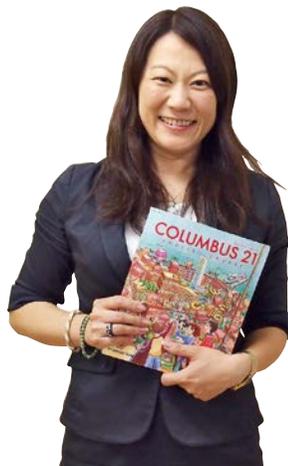


こう使う！

COLUMBUS 21

ENGLISH COURSE ②

ストーリー性に優れていると好評をいただいている
中学校の英語教科書『COLUMBUS 21』。
現場では、どう評価され、どのように使われているのでしょうか。
実際に使用している学校取材し、先生のインタビュー(前半)と
授業レポート(後半)の2部構成でご紹介します。



横浜市立老松中学校



神奈川県横浜市西区にある公立中学校。
1947年創立。各学年3〜4クラス、410
人の生徒が学ぶ。近くには野毛山動物園
や古くからの繁華街である野毛町がある。
横浜市では1999年度から市内全343校
の小学1〜6年生の児童を対象に英語教
育を実施しており、現在在籍する生徒た
ちのほとんど全員が小学1年生から英語
に触れている。

桜井千寿先生

横浜市立老松中学校 英語科教諭

大学院では英文学を専攻。大学院修了後、
横浜市内の公立校に勤務し、2015年よ
り現職。14年より横浜市教育課程研究
委員会 YICA (Yokohama International
Communication Activities)・外国語科専
門部会委員を務める。

何度も繰り返して使う

『COLUMBUS 21』が、全編を通してストーリー展開している」と聞いて、最初はその意味も使い方もよくわかりませんでした。でも授業を進めていく中で、生徒に気づかされたことが多かったんです。「タクっていい人だよ」とか「この台詞はちょっと思わせぶりの発言じゃない？」とか、言い始めるんですよ(笑)。みんなドラマを見るようにストーリーを読んでいて、1年生の生徒が、続きが知りたいからと、お兄ちゃん、お姉ちゃんに教科書を借りて読んでいる姿も目にします。3年生にもなると、教科書の登場人物はもう友達感覚。最後の授業では、登場人物から一人を選んで3年間を振り返るタイムラインを作り、手紙を書くという授業

をしたんですが、「ミンホ、韓国でがんばってる？」などと、嬉々として取り組んでいました。

英語が苦手な生徒も含め、みんながストーリーを覚えているので、**教科書の前の場面に戻って復習がしやすい**んです。場面をフックに、「夏祭りで、誘う表現あったよね？」などと促すと、生徒はすぐに該当するユニットに戻って、「あ、そうだった!」と確認をする。**何回も繰り返し本文に触れることで、文法表現や単語などが定着していく**んです。本校では、**1年間で2回教科書を繰り返し、1,2年の教科書は次の学年でもう1回**。3回繰り返し、3年生には3冊すべて持たせるようにしています。

「自然な会話」を意識させる

1年生は特に、「積み重ね」の時期なので、

雑多でもいいからインプットを増やしていくべきだと考えています。また、1学期は小学校からの「つなぎ」も意識しなければなりません。ここ横浜市の中学生は、小学校1年生から英語に触れてきているので、英語を聞く姿勢が育っています。それを試し、育てるためのウォーミングアップにも教科書を活用しています。

特に、**重視しているのが「自然な会話」のイメージづくり**です。中学校に入って、これまでただ口にしてきた英語表現を、英語と日本語の意味を一致させながら覚えていくようになります。例えば、「Do you like apples?」という表現は通常「あなたはリンゴが好きですか」と訳しますが、生徒に「リンゴ好き?」と聞いて、これを英語で言ってもらおうとすると、「ん?」と一瞬悩みます。つまり、日本語は主語を省くという感覚が、すぐにはつかめないんですね。この違和感のようなものを、少しでも減らしたいと思って、「教科書本文の会話を『自然な日本語』の会話にして練習し、もう一度その日本語から英語の会話にして練習する」というウォーミングアップをしています(次ページの授業も参照)。英語と日本語の構造の違いに気づいてもらうことと、日常会話の雰囲気そのままに英会話ができるようになることがここでのねらい。イントネーションも、CDなどで繰り返し指導するよりもスムーズに定着しますし、将来的に、自らのことを発信する場面でも、「英語でどう表現するのか」素早く考えられるようになるのではないかと思います。

生徒たちは、最初は「自然な日本語」の会話にするとすることに抵抗を感じるようなのですが、Unit 2回分ほどですぐに慣れてしまいます。最後に英語の会話に戻るとき、「このノリでこのまま英語で読むよ」と言うと、教科書の登場



1年 Unit9 球技大会で助け合う、タクとミンホ。



2年 Unit7 バンド練習で、タクとミンホが大ゲンカ。



2年 Unit9
バレンタインデーに、アヤはミンホにチョコをプレゼント。

アヤ、タク、ティナ、ミンホという4人の中学生が、友情、仲たがい、ロマンスなど、さまざまな出来事を経て、中学3年間で成長していくストーリー。等身大のキャラクターに、生徒たちは感情移入して読み進める。

人物たちを演じるように読み始めるんです。**ストーリー性のある教科書だからこそ**できることですよ。こうした授業を通して、登場人物たちの個性、性格が生徒に浸透していく。いやむしろ、**生徒たちが登場人物たちの性格付けをしていける教科書**というべきなのかもしれません。等身大の登場人物たちと学べるというのがすごく楽しいのですね。生徒たちはみんな、この教科書が大好きなんですよ。

桜井先生の授業は次のページでご紹介!

こう使う!
COLUMBUS 21
ENGLISH COURSE

櫻井先生の授業を レポート!

1年3組(生徒数:35名)

学習内容:Unit5 導入(第1時)

本時の目標:Unit5のストーリー理解



“Good morning!”教室に櫻井先生のよく通る声響く。その日は金曜日。“How do you spell ‘Friday?’”と問いかけると、「F, R, I……」, 生徒たちの声も先生に負けじと大きくなった。曜日と日付, 天気のスベル確認を終えた後は, アイスブレイクに歌をうたう。この日は, The Carpentersの*Top Of The World*だ。生徒たちは, 身体でリズムを取りながらうたっていた。

[ウォームアップ]
本文の会話を「自然な日本語」に

副教材を使ったドリル練習を行った後, 教科書を使ったウォームアップ。次に示す既習のUnit3 Part3本文の復習だが, 櫻井先生の取り組みはとてもユニーク。なんと, 生徒が思い思いに訳

した「自然な日本語」を用いて, ペアで会話練習をするのだ。

【Unit3 Part3本文】

Taku: Here you are, Tina.

Tina: What's this?

Taku: It's your school badge.

Tina: A badge?

Taku: Yes.

Tina: Oh, I see. Thank you.

Taku: You're welcome!

ペアで役を交代しながら約5分。“Any volunteers?”と櫻井先生が問いかけると, 複数の

●Unit5 A Summer Festival

本文の内容: 音楽好きの4人はバンドを結成。そして迎えた夏休み。4人は待ち合わせて夏祭りに向かう。

時	内容
第1時	導入 ★
第2~7時	Partごとに、(文法の導入と単語の導入) (本文の内容理解とポストリーディング、フォローアップ活動(「Try It!」など))各1時間
第8時	文法(「You Can Do It!」など)
第9時	アウトプット活動(ALTを交え、教科書の題材を用いたスピーチなど)

今日の
授業はココ!

手が挙がり, 一組目のペアが発表。

生徒1 はいよ, ティナ。

生徒2 なにこれ?

生徒1 学校のバッジ。

生徒2 バッジ?

生徒1 うん。

生徒2 あーなるほどね, ありがとう。

生徒1 いいよ, ぜんぜん!

続けて複数のペアが発表。どの生徒も, 普段話さような言葉でうまく訳していた。中には, ティナのキャラクターイメージを再現しようとする生徒や, 大きなジェスチャーをつける生徒も。ユニークな発表に教室が盛り上がったところで, 「じゃあみんな, このノリそのままに英語で読んでみようね」と櫻井先生。生徒たちの音読は, 感情豊かで, 「自然な会話」そのものになっていた。

[Unit5の導入]
課題を意識して聞く

いよいよ本時の内容, Unit5の導入に入る。櫻井先生は, 生徒たちに教科書の扉のページを開かせると, “Do you like summer festivals?”と聞いた。偶然にもこの日地域で縁日が開かれるということで, “Yes. Today!”という元気な声。“What do you do?” “What do you eat?”と続けて投げかけると「I eat かき氷」「I play 金魚すくい」など, 次々と声があがった。

ここで, すかさず櫻井先生が“How about Aya?”と問いかけながら, 黒板に7枚のピクチャーカードを貼った。生徒たちにも同様にカードのイラストがランダムに印刷されたプリントを配付。「タスク1 本文を聞いて, 話の内容に合うようにA~Fの絵を並べ替え, ()に順番に数字を書きましょう」と書かれている。



Unit3 Part3の本文をペアで会話練習。
タクとティナになりきり、「自然な日本語」に訳そうとする生徒たち。

櫻井先生は, 教科書を閉じさせ, CDでUnit5の本文全文の音声を流した。プリントの絵を見ながら本文を聞く生徒たちの姿は真剣そのもの。繰り返し2回聞いた後, ペアで話し合い, 全員で答え合わせを行った。

意見が割れるところがあったので, もう一度全員でCDを聞いてみることに。無事満場一致で絵の並べ替えができたところで, 櫻井先生が解答プリントを配付した。ここで, 授業終了を告げるチャイムが。プリントの裏側には, 「タスク2 それぞれの絵が表す場面をよく表している言葉を聞き取って, 周りの人と話してみよう」とあったが, これは次時に行くこととなった。

まさにあっという間の50分。生徒たちの集中も一切途切れず, 盛りだくさんの内容だった。



1年Unit5の扉。